

## 桜満開

附属小の北側駐車場にある桜の木も満開になり、春爛漫を感じる季節になりました。昨日の仙台市での最高気温は24℃。初夏を思わせるような1日となりました。ところで駐車場の桜の木といえば、先生方の多くの学級でもこの木の下で学級集合写真を撮ったことと思います。お勧めは春、夏、秋、冬と季節ごとに集合写真を撮影することです。桜の木に見守られて子どもたちの成長が本当に感じられます。

さて、学校に子どもたちの歓声が戻って、平成29年度が本格的にスタートしました。

朝、校庭で遊んでいる子どもたちと先生方を見ると、「ああ、附属の子どもたちは本当に幸せだなあ。」と実感します。遊んでいる子どもたちは違っても、この風景は全く変わっていないことに安心と先生方への感謝の気持ちで一杯になります。

そんな中、ふと何か「違和感」を感じたのが子どもの数でした。

現在附属小は30人学級で24学級。で720人の定員。欠員があるので702名です。

私が勤務していた頃（平成4年）は36人学級の24学級でしたので定員864名だったわけです。

純粹に定員で比較すると $864 - 720 = 144$ 人となり、この数は昔の「1学年」分の人数、あるいは単学級で構成する学校の1つ分になるわけです。

着任式で式台から子どもたちを見た風景、廊下から感じる教室の風景のちょっとした違和感もここに原因があることに気づきました。

ご承知の通り標準法では1学級40人と決められています（※1年生は弾力化。宮城県では2年生も弾力化を実施している）。40人と30人では10人違うわけで、この差は大きいと思うからです。

ここからが本題。

30人学級はいわば理想的な人数。この30人学級のメリットを存分に生かした授業を目指したいと思うわけです。45分授業で、一人に2回発言の機会を与えるとして、30人では60回に対し40人では80回。グループ活動にしても、これまでスタンダードだった6人×6グループを4人×4グループ、5人×2グループの6グループと考えると、よりグループでの一人一人の活動の保証と教師の見取りが可能になるわけです（言うことは簡単ですが）。

公開研究会の指導案作成、学級懇談会資料の作成、教室経営と、県内どこを探しても今の時期にこれだけの業務をこなしているのは附属の先生方だけです。

間もなく連休。先生方の元気が子どもの元気。心身ともにリフレッシュする時間を無理しても作って、ここを乗り越えていきましょう。

(文責：副校長 手代木)